

宮古発

復興へのメッセージ

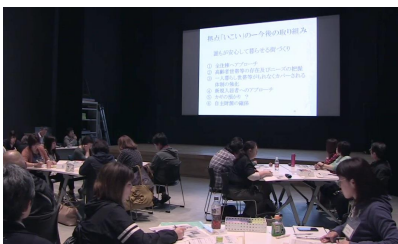


宮古市の花輪中の生徒が、復興道路・宮古西道路の閉伊川横断橋に復興への思いを込めたメッセージを書きました。宮古西道路は延長7.4キロの自動車専用道路で、一部区間が年度内に開通する予定です。生徒たちは舗装を待つだけの橋の床面に色とりどりのペンキを使って「がんばろう宮古」といった文字や絵を書き込んでいました。(10/10 ニュースエコー)

釜石発

地域コミュニティを支援

仮設住宅から災害公営住宅に転居した後の地域のコミュニティや住民同士の支え合いについて学ぶ研修会が釜石で開かれました。県が行った研修会には被災者支援の相談員など41人が参加。横浜市で見守り支援活動などを行っているNPOのメンバーが講演し、大切なのは「助け合い」と「楽しくやること」だと話していました。(10/12 ニュースエコー)



大船渡発

豪華客船が入港

客船「ばしふいっくびいなす」が、東北や北海道、長崎などを巡る10泊11日のツアー客325人を乗せて大船渡港に入港しました。全長183.4メートルのこの豪華客船、大船渡に立ち寄るのは15回目、埠頭では市民が太鼓などを披露して歓迎しました。



ツアー客はさっそくバスに乗り込み、平泉などへ観光に出かけていました。(10/13 ニュース)

陸前高田発

消防・防災フェスタ

消防や防災について学ぶ催しが陸前高田で開かれました。会場には、震度7の揺れを体験できる車が用意され、参加した人たちはその激しさに驚いていました。また、煙が充満した室内から避難する体験なども行われました。子どもたちは消防車に乗ったり、記念撮影をしたりと楽しみながら消防、防災への理解を深めていました。(10/14 ニュース)



釜石発

書店で“知的書評合戦”

発表者が5分の持ち時間で好きな本を紹介し、投票で、その日の「チャンピオン本」を選ぶ「知的書評合戦」という催しが13日に釜石で行われました。会場となったのは1935年創業の桑畑書店。津波で全壊し、去年、市の中心部の復興住宅1階に再建しました。書評合戦は好評で、次回開催を求める声もあがっていました。(10/15 ニュースエコー)



釜石発

中学生が甲子柿づくり



釜石の甲子中の生徒が、地元特産の「甲子柿(かっしがき)」づくりを学びました。生徒たちは、原料になるカキの実の収穫に続いて、渋を抜くためにカキを燻す柿室(かきむろ)を見学しました。釜石特産の甲子柿はゼリーのような柔らかさと強い甘みの特徴です。初めて食べるという生徒もいて独特の食感と甘さに驚いていました。(10/16 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから<http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122